

小野 立

立

市民ネットワーク
(市民の声、大河の会、能代民政会)

地方行政にとつての至上命題は何か

問 8年前、市長選に臨んだ際、今後の地方行政は住民の所得向上を至上命題に据えて諸施策を打ち出すべきだと唱えた。その信念は今も変わらない。5期20年務められた市長の御所見は。

答 幸福の捉え方は多種多様で、所得向上は重要な要素の一つではあるが、それが全てではない。総合計画の基本理念に掲げた、こころの豊かさ、からだの豊かさ、ものの豊かさを市民一人一人が実感することができると、幸福共創の社会を築き上げることが、そしてそれを持続可能なものにしていくことが、地方行政に課せられた至上命題だと考えている。

熊害による売上減への支援の必要性

問 春以降の熊の頻繁な出没を確実とする専門家の意見がある。熊対策には、駆除等の直接的対応による市民の安全確保のほか、今後は、熊害により売上が激減する飲食業者等の支援も必要ではないか。

答 年明け以降、市内での熊の目撃情報がなく、これまで、飲食店をはじめとした事業者から熊の影響に関する相談は寄せられていないことから、現時点で新たな支援策は考えていない。

その他の質問事項

- インフレによる公債費負担の縮減効果
- インバンド獲得に向けた県の新施策

菊地 時子

日本共産党

平和啓発のため被爆地への派遣事業

問 能代市非核平和都市宣言から19年。未来を担う子供たちが被爆地を訪問し、戦争の悲惨さ、平和の尊さを学び、平和の大切さを後世に伝えるため、体験学習として被爆地への派遣事業を行う考えは。

答 被爆地への派遣事業は、旧能代市で平和を考える旅事業として実施していたが、希望者の減少等から事業を終了した経緯がある。より多くの市民の皆様が戦争の悲惨さや平和について深く考えていただくため、原爆パネル展等を開催していることから、改めでの実施は考えていない。

高齢者の医療・介護・暮らしの現状は

問 老後不安の第一に、病气や介護が必要になったときの費用負担の心配が挙げられる。さらに、地域医療や介護の崩壊など高齢者の不安が募るばかりだが、市は現状をどう捉えているか。

答 少子高齢化等の進展に伴い、医療や介護のニーズが高まっているほか、制度改正等により、将来への不安を感じている高齢者も少なくないと思われる。これまで、高齢者の健康づくりや介護予防、包括的な相談、支援体制を構築し、生活の不安解消に取り組んでおり、今後も、関係団体等と連携を図りながら、高齢者福祉の向上に努めたいと考えている。

その他の質問事項

- 獣害対策を地域の再生につなげる考えは

今野 孝嶺

希望

白神ねぎの産地拡大への課題は

問 令和6年度に販売額20億円を達成した白神ねぎだが、販路拡大や輸送コストの上昇、生産者の育成や人手の確保等、克服すべき課題は多岐にわたる。さらなる産地拡大への課題をどう捉えているか。

答 作付過多や不適切な圃場選定、規模拡大志向の低下等の課題を踏まえ、現在の作付規模を維持した上で、単収の増加と品質を高めて販売額実績を伸ばしていく必要があると考えている。市では、気象変化への対応、栽培技術指導の充実等によって生産活動を支えるとともに、内外へのPRを通じたブランド力強化の取組により産地拡大につなげたい。

農業技術センターの機能強化を

問 スマート農業等のより高度な技術指導を行っていくために、時代に即した試験ができる機能を有した農業技術センターの一刻も早い整備を求めたい。整備の検討状況は。また人員を拡充する考えは。

答 6年度から整備方針庁内検討会議により協議を行っているが、方針決定までには時間を要するものと考えている。時代に即したセンターとなるよう、引き続き検討を進める。また、人員は充足している状況にないため、専門人材を含めた人員の確保に引き続き努め、センターの機能強化を実施する際は、人員の拡充も検討したいと考えている。

その他の質問事項

- 白神ねぎの天候不順への今後の対策は
- 市長記者会見の動画配信